

取組事例の名称	某企業様 某浄化センターにおける応急工事
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急を要したため、計画、試験、実施を短い期間で行う必要があった。 ・地域住民から臭気に対する苦情もあったことから、臭気抑制といった観点から試験を行った。 ・企業様も用地手当て、計画の周知など、迅速な対応に迫られた。 ・施工自体は簡易なものであるため、施工自体での困難はない。 	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臭気対策（完了箇所のシート掛け）等により、地域住民からの苦情もなくなった。 ・企業様からも迅速な対応等で評価を受けた。 	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応急的に行った汚泥のセメント改良であるが、コストとしては多大なものがある。段階的にセメント添加量を落としたが、配合については、改善の余地はあると考える。 	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波災害があった場合、公共インフラで最も被害を生じるのが下水処理施設であることが今回、判明した。原子力災害もあり、未だに汚泥処理は各施設で問題となっている。沿岸にある下水処理施設については、今後臨機への対応を含めて、施設の充実をはかるべきではないかと思う。 	
NETIS登録	